

Chiyoda-Link+

整形外科では、外傷や加齢が原因となる疾患を中心に治療しています。日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR：2023年度版）によると、外科処置の1位は大腿骨骨折観血的処置で、次いで人工膝関節置換術となっています。この人工膝関節置換術において国内でも数少ない「人工膝関節単顆置換術（UKA）」を専門とする医師が千代田病院に在籍しています。

そこで今回は、整形外科の福田一医師に話を聞きました。

「膝の痛み」をどう考えるか



私たち千代田病院整形外科で最も多い症例は骨折です。それに次いで、私が赴任した2025年4月以来治療件数を伸ばしているのが、人工膝関節置換術です。

膝の痛みは、骨の関節面を覆う関節軟骨がすり減ることで生じます。軟骨は加齢、肥満、負荷の蓄積などが原因で摩耗していきます。軟骨が残存している段階であれば筋トレ・減量・歩容の改善というリハビリの3本柱で痛みの進行を遅らせることができます。しかし、軟骨がなくなってしまったら痛みの進行を食い止める方法（薬）はありません。痛みによって日常生活に支障が出てきた時が人工膝関節置換術を検討するタイミングです。



整形外科専門医
福田 一

人工膝関節置換術の種類



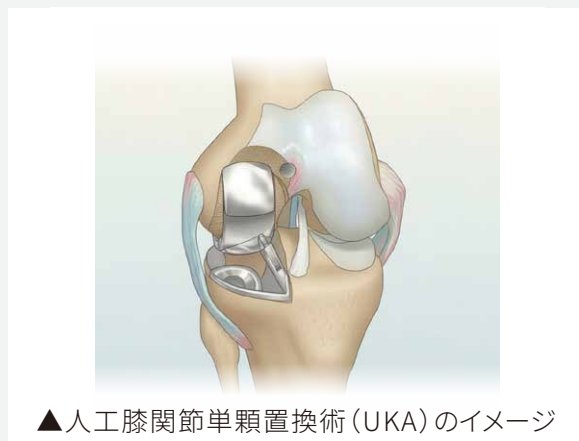
一般的に人工膝関節置換術には「人工膝関節全置換術（TKA）」と「人工膝関節単顆置換術（UKA）」の2種類の術式があります。

満足度の高い人工膝関節置換術を求めて

TKAは膝関節の関節表面を大腿骨側、脛骨側とも削り、そこに人工関節装置の部品を設置します。言うなれば「膝関節部分を丸ごと取り換える」イメージです。手術の際に前十字靱帯（および後十字靱帯）を切断するため、靱帯機能不全膝となり、膝関節の本来の動きは失われます。入院期間は1か月程度です。

一方UKAは、摩耗した軟骨部分だけに人工関節装置を設置する手術です。軟骨表面部分のみを再生するようなイメージで、靱帯を温存するため、軟骨がある「若かりし頃の膝」に戻ります。入院期間はリハビリを入れて2週間程度です。また術後の感染症リスクもTKAと比べUKAは1/4以下というデータがあります。

メリットの多いUKAですが、国内の人工膝関節置換術全症例のうち9割程度がTKAで、UKAは1割程度という現状です。そこには技術の高さとともに治療施設および環境が限定されることなども遠因として存在しています。



▲人工膝関節単顆置換術（UKA）のイメージ

真の患者の満足を求めてUKAを習得

TKAの症例数が多いということは、対応施設が多く、医師の技術レベルも安定しているということですがTKA治療後は階段や坂道などの歩行は難しくなり、平地を杖なしで歩けるようになるのは7割程度、術後の患者満足度も70%程度です。もともと歩行困難な方への治療のため平地の歩行に満足される方もいらっしゃいますが、痛みも持続的に伴うため完全に元の膝に戻る治療ではありません。私自身も多くのTKA症例を経験するなかでより良い方法があるのではないかと思います。全国のような先生に師事しながらUKAの手技を学び、より多くの経験を積んで、ようやく自信を持って生まれ育ったこの地域に戻ってきました。UKAは回復が早く、術後の患者満足度は97%という結果もあり、この方法には大きな未来があると感じています。

診断と治療の流れ

UKAはTKAより細かな適応があり、すべての方が対象になるわけではありません。膝関節の内側あるいは外側の摩耗であること、炎症性疾患ではないこと、前十字靱帯の機能が十分であることなどが挙げられますが、適応外であっても技術的に可能な場合もあるため

CTおよびMRI等の検査のうえで慎重に適応を診査します。現状では、膝関節の痛みを訴える方の9割程度はUKAの適応と診断しています。

治療の流れは、まず外来受診をしていただき、その日に画像診断を行い、UKAの適応であれば手術日程を決定します(現状は1か月後程度で予約可能)。全身状態を確認するため術前検査を行い、問題がなければ手術を行います。手術時間はおよそ40～50分程度で、下半身麻酔による無痛状態下の手術です。軟骨部を置換するだけなので手術翌日から歩行が可能です。入院期間は安全を見て2週間とし、その間にUKAに特化したリハビリを行い、退院時には9割の方が独歩、階段昇降が可能な域に達します。

症例数年間100例以上の実績は国内でも一握り

現在、UKAの対応施設は九州内でもそれほど多くありません。かつ、年間100症例以上執刀している医師は片手で数えるほどです。この経験数が、患者様の予後にも大いに役立っていると考えます。

「家族にも自信をもって勧められる治療」を求め、技術を磨きました。日向市そして県内外問わず全ての膝に悩む方のお力になれるよう努めてまいります。

+DoctorCARD

福田 一 HAJIME FUKUDA

日本整形外科学会：整形外科専門医

日向市日知屋出身(日知屋東小→富島中→日向高校卒)。富島中学でラグビー部に入部。大学卒業までのラグビー競技生活のなかで複数回の骨折を通じて整形外科の可能性に魅了され整形外科医となった。生まれ育った地元で医療で貢献したいと考えている。休日は家族とペット(柴犬)とともに散歩を楽しむ。いま興味があることは、量子力学。

Chiyoda Hospital News

Chiyoda-Link+ 02



医療機関の先生方へ

整形外科・福田医師の診療日は、月曜日・火曜日・木曜日の午前中です。初診の場合は10時30分までにご来院いただくよう患者さんへご案内ください。休診等の診療スケジュール変更のご確認、診療日に関するご不明な点は、下記、病院代表番号へご連絡ください。

発行：社会医療法人 泉和会 千代田病院

〒883-0064 宮崎県日向市大字日知屋字古田町88番地 TEL：0982-52-7111(代表)



社会医療法人 泉和会

千代田病院